

令和2年3月26日（木）

第2回美祢市新秋芳総合支所庁舎等整備計画 有識者会議 資料

美祢市新秋芳総合支所庁舎等整備基本計画の構成

第1章 新秋芳総合支所庁舎等整備計画の背景

- 1 秋芳地域の概要
- 2 新秋芳総合支所庁舎等整備計画の背景
- 3 現秋芳総合支所庁舎および周辺の公共施設の現状と課題
- 4 新秋芳総合支所庁舎等整備基本計画の検討経過

第2章 新秋芳総合支所庁舎等整備の基本的な考え方

- 1 新秋芳総合支所庁舎等に求められる基本的な役割について
- 2 新秋芳総合支所庁舎の複合化の基本的考え方
- 3 秋芳地域の複合施設立地エリアのまちの構造
- 4 民間施設との複合化の可能性
- 5 先進事例

今回
資料

第3章 秋芳地域の複合施設（新秋芳総合支所庁舎等）の整備方針

- 1 複合施設の機能及び規模
- 2 複合施設の建設場所
- 3 敷地利用計画
- 4 複合施設の建築計画
- 5 環境計画
- 6 防災計画
- 7 ユニバーサルデザイン計画
- 8 交通アクセス計画

第4章 事業計画

- 1 事業スケジュール
- 2 概算事業費
- 3 財源の検討
- 4 ランニングコストの検討
- 5 既存施設・跡地の取扱い

資料編

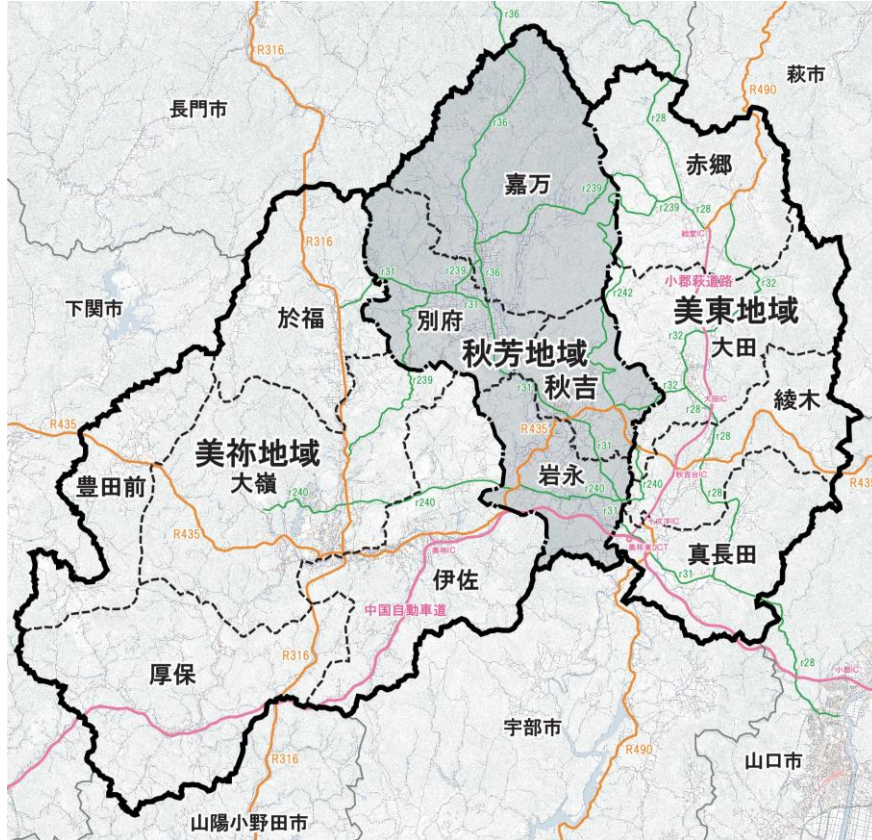
第1章 新秋芳総合支所庁舎等整備計画の背景

1 秋芳地域の概要

秋芳地域（旧秋芳町）は、美祢市の中央に位置し、東に美東地域（旧美東町）、西に美祢市の中心部、南に宇部市、北に長門市に接する人口約4,800人の地域である。地域の中心は、秋吉で、山口市からバスで約60分程度、新山口駅からバスで約40分程度、自家用車によると美祢市の中心部から約20分程度である。

旧秋芳町は、昭和29年、それぞれ盆地状の地形の中で農業を中心としてコミュニティの基礎的な単位を形成していた共和、別府、秋吉、岩永の4村の合併によって発足した町である。

町役場がおかれた秋吉の中心部には、かつて赤間関街道中道筋の宿場があり（現在の中国JRバス秋吉駅周辺）、古くから賑わいを見せていた。昭和40年代になると、秋吉台や秋芳洞が観光地として脚光を浴びるようになり、山陽新幹線が博多まで開通し小郡に停車するようになった昭和50年には、200万人近い観光客が訪れ、町は多いに賑わった。しかし、その後、観光行動の多様化にともない、徐々に入込み客数が減少し、平成30年現在、秋吉台・秋芳洞を訪れる観光客は約65万人にまで減少している。



図一〇 秋芳地域の位置

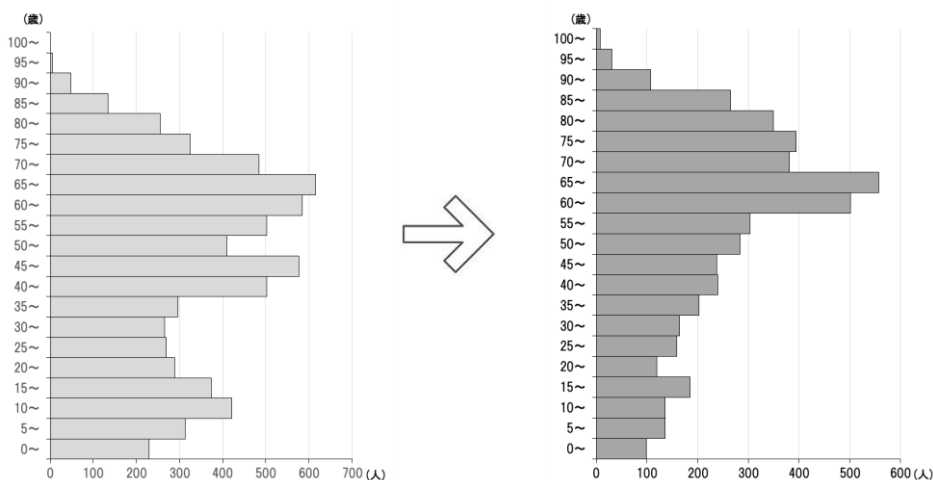
平成に入ると人口減少に拍車がかかり、高齢化、少子化が急速に進んでいる。(表一〇) そのような状況の中で、平成 20 年には旧美祢市、旧美東町と 1 市 2 町で合併し、新しい美祢市が誕生することになった。合併前は、町役場を中心に様々な関連施設が立地していた。しかし、本庁機能が無くなるのに合わせて旧町役場周辺に立地していた商業系の施設も撤退が進み、一気に活力を失っている状況にある。

秋芳地域は、人口減少、高齢化の進行、出生数の減少という厳しい現実を抱えている状況にある。

秋芳地域

平成 7 年 6,899 人

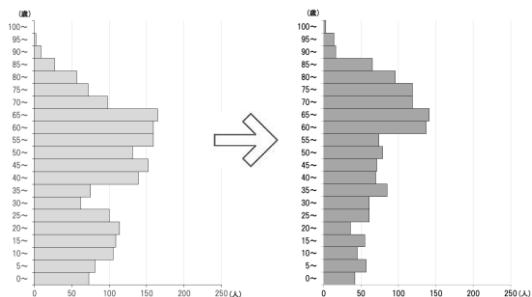
平成 27 年 4,857 人



秋吉地区

平成 7 年 1,889 人

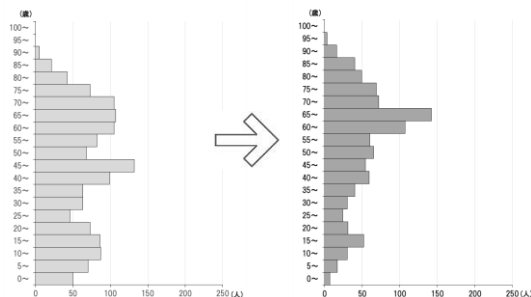
平成 27 年 1,446 人



岩永地区

平成 7 年 1,377 人

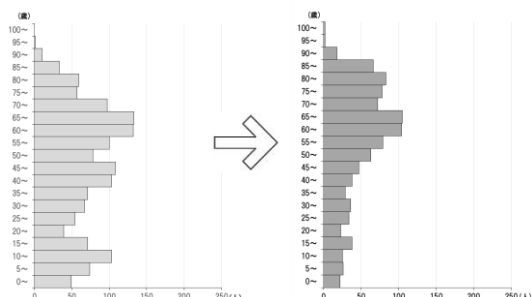
平成 27 年 967 人



別府地区

平成 7 年 1,439 人

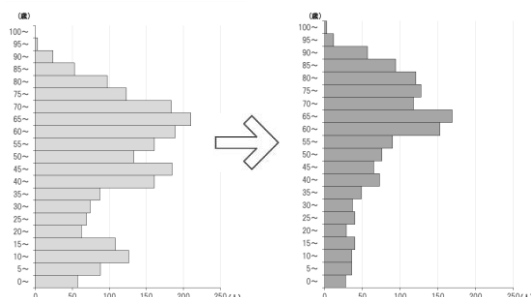
平成 27 年 990 人



嘉万地区

平成 7 年 2,194 人

平成 27 年 1,454 人



表一〇 秋芳地域全体および地区別の年齢5歳階級別人口
(H27 年国勢調査をもとに作成)

2 新秋芳総合支所庁舎等整備計画の背景

現在の秋芳総合支所庁舎は、平成 20(2008)年の美祢市合併に際し、それまでの秋芳町役場庁舎として使っていた建物をそのまま転用したものである。旧秋芳町役場庁舎は、昭和 32 年に建設されたもので、築後 60 年以上が経過しており、これまでに必要に応じた改修が繰り返されてきているものの、老朽化が進行している状況である。旧耐震基準で建てられているため、その対策も求められている。

総合支所の周辺には、秋吉公民館、秋芳図書館、秋芳体育館などの公共施設が立地しているが、いずれも総合支所庁舎同様に旧耐震基準で建てられており、老朽化も進行しているため、今後とも安心して使い続けるためには、大規模な耐震改修工事などが必要となってくる。

このような状況の中で、総合支所機能、公民館機能、図書館機能を一体的に整備するという基本構想に基づき、複合施設として整備を進めることになった。

建替えの必要がある複数の公共建築をまとめて計画出来ることは、向こう 50～60 年に亘って地域住民に対する公共施設サービスの基本的な方向を決めてしまうということであり、その計画策定には、住民の声を集めて取り組んで行くことが求められているといえる。今後、人口減少社会の中で、地域で暮らす市民にとって、「くらしの中心」としての役割を担う公共施設にはどのような機能が備わっているべきなのかを、地域住民の声を取り入れながら協働して計画を進めて行く必要がある。同時に、民間の関連機能を取り込みながら複合化の方向を探り、コンパクトで効率の良い施設としてのつくり替えを通じて、新しい地域の拠点をつくり直していくことが、喫緊の課題となっている。

そのような状況の中で、建替えを契機として、総合支所、公民館、図書館が複合した「新しいまちの中心」をつくることへの期待は大きいといえる。



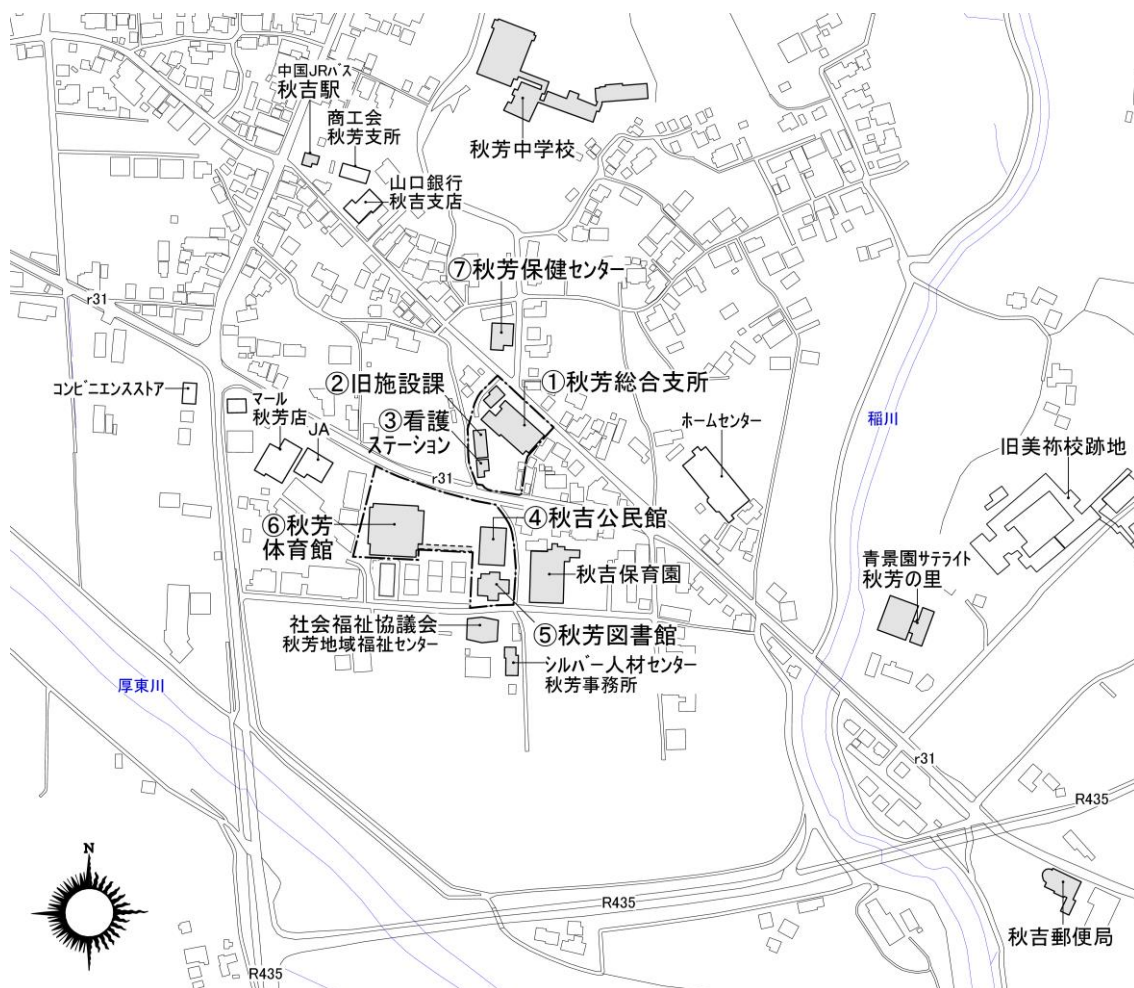
秋芳総合支所庁舎 外観



秋吉公民館 外観

3 現秋芳総合支所庁舎および周辺の公共施設の現状と課題

総合支所庁舎の周辺には、秋吉公民館、秋芳図書館、秋芳体育館、訪問看護ステーション、秋芳保健センター、秋吉保育園、秋芳中学校などの公共施設が立地している。



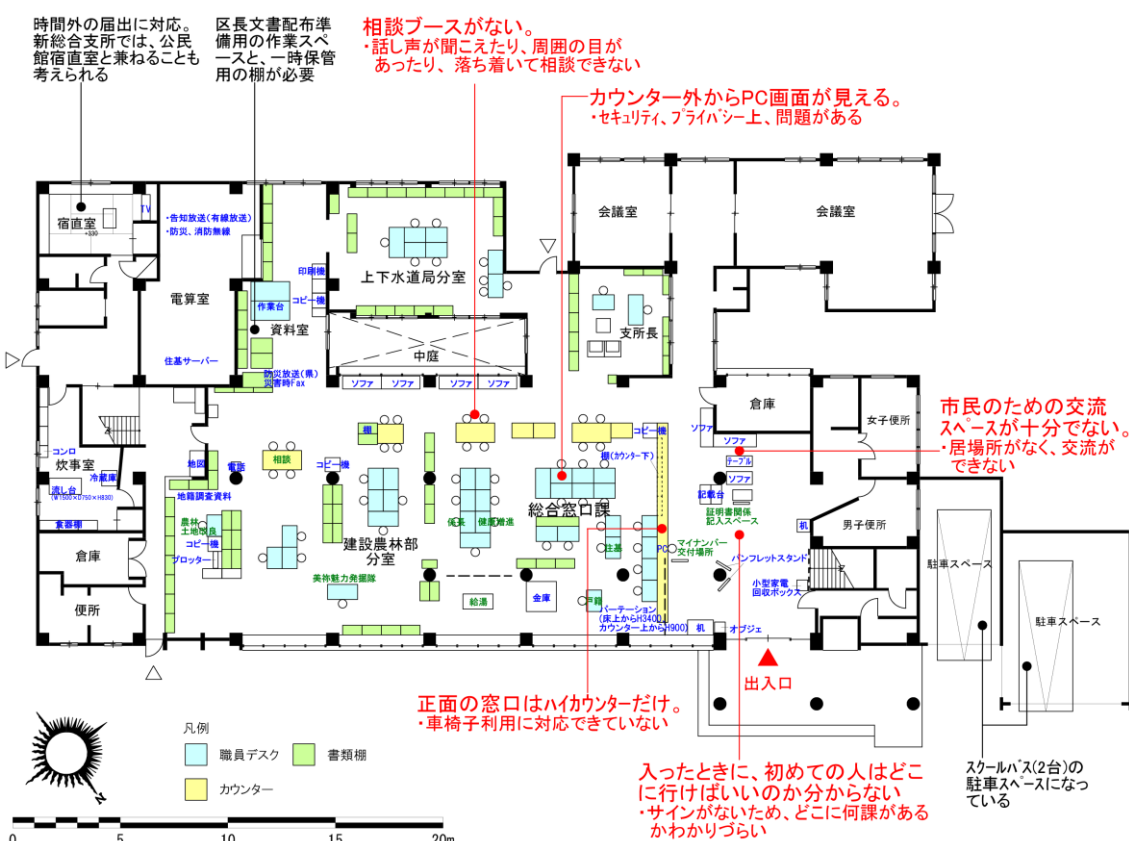
図一〇 秋芳総合支所および周辺施設の位置

	施設名	構造	階数	延床面積	建設年月	経過年数	耐震基準
①	秋芳総合支所	RC造	2階建	1,472.91 m ²	S32.11	62年	旧
②	旧施設課	木造	平屋	157.03 m ²	S40.3	55年	旧
③	訪問看護ステーション	RC造	平屋	87.74 m ²	S59.1	36年	新
④	秋吉公民館	RC造	2階建	1,097.62 m ²	S44.3	51年	旧
⑤	秋芳図書館	RC造	平屋	335.55 m ²	S44.4	51年	旧
⑥	秋芳体育館	S造	2階建	1,502.76 m ²	S45.5	50年	旧
⑦	秋芳保健センター	RC造	2階建	525.61 m ²	S60.3	35年	新

表一〇 秋芳総合支所および周辺施設の概要

1) 秋芳総合支所庁舎

昭和 32 年に建設されたもので、築後 60 年以上が経過している。老朽化が進行し、建て付けの悪い開口部や、屋上からの雨漏りなどが発生している状況である。また、自然災害時には、美祿市本庁舎と連携する災害対策拠点としての役割を担っているが、旧耐震基準で建てられているため、災害時も機能を継続するためには、大規模な耐震改修工事などが必要になってくる。維持管理費の増大や、入口部分のアプローチや、トイレ空間などバリアフリーへの対応等についても、改善が求められている。もともと旧秋芳町の役場として建てられているため、合併後減少した職員数に対して必要な床面積以上の規模があり、2階部分はほとんど使われていない状況にある。



図一〇 現秋芳総合支所の使われ方調査



正面窓口。各課の案内表示がなく、どこに行けばいいかわからず、一目で分りづらい。



待ち合いロビーと対応スペース。相談ブースなどがなく、落ち着いて話ができる環境になっていない。

3) 秋芳図書館

秋芳図書館は、秋吉公民館と同年の昭和44年に、地域内では唯一独立した建物として整備された図書館である。蔵書の貸し出し業務以外に、古文書講座の開設、地方文化研究会の活動支援、読み聞かせ活動等、特色ある活動を展開してきた。しかし、旧耐震基準に基づいて建てられていること、蔵書の増加による閲覧スペースが手狭になってきたこと、等が課題となっている。

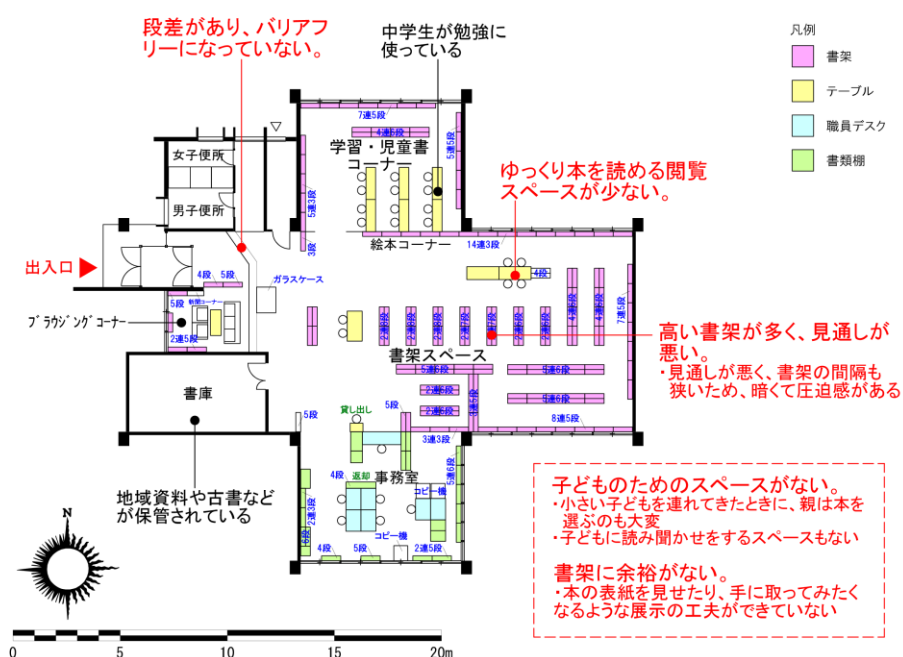


図-〇 秋芳図書館の使われ方調査



開架書架。高い書架がほとんどで、見通しが悪い。書架の間隔も狭く、暗くて圧迫感がある。



絵本コーナー。小さな子どもを連れてゆっくり本を選んだり、読み聞かせをするスペースがない。

4) 秋芳体育館

秋芳体育館は、昭和 45 年に建設された。スポーツ活動以外にも、地域のお祭りや文化活動にも利用されている。しかし現在では、旧耐震基準で建てられていること、老朽化が進み、雨漏りがしていることなどから、近隣の小学校や中学校の体育館を代替利用するようになった利用団体が多い。



体育館平土間部分。雨漏りが原因となり、壁面(写真カーテン下部分)の塗装が部分的に剥離している。



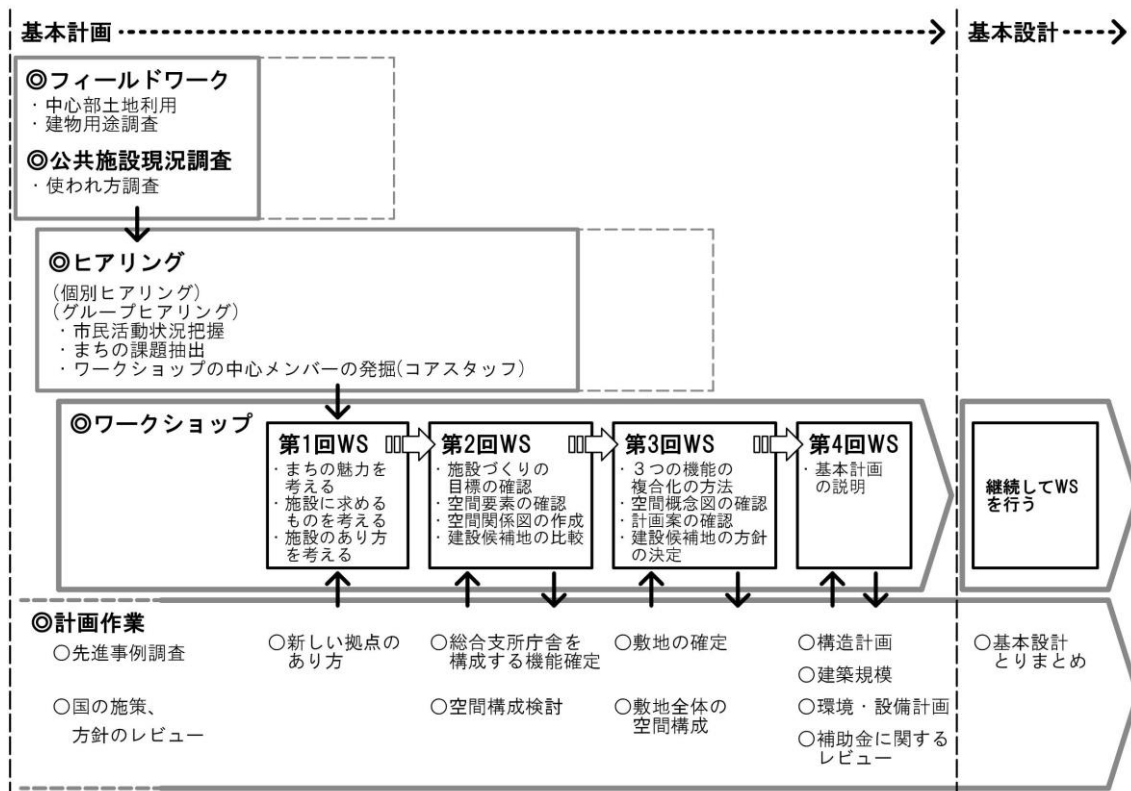
体育館前広場での秋芳ふれあい祭りの様子。イベント時には体育館前がステージになる。

4 新秋芳総合支所庁舎等整備基本計画の検討経過

令和元年7月に策定された新総合支所庁舎等整備基本構想においては、総合支所（行政施設）、公民館および図書館（社会教育施設）を複合化する方針が示されている。また、総合支所周辺は、地域住民の日常生活と地域活動を支える地域拠点として位置づけ、市民へのきめ細やかなサービスを提供する場であり、地域振興の中核となる施設であると同時に、市民の生命と財産を護り、市民が安全安心に暮らせる生活環境を護るための拠点施設であることが期待されている。

以上のことから、庁舎整備にあたって、1. 市民が訪れやすい環境づくり、2. 防災機能の向上、3. 施設の複合化、4. 地域振興、が基本理念として示されている。

基本構想で示された基本理念を実現するためには、基本計画の検討過程において、市民参加の元で、地域の将来を、住民が中心となり、行政、計画者などが一緒に考える協働のプロセスを経ることが重要であると判断した。そのため、地域の歴史やなりたちに関する資料や、現地の実態を確認するフィールドワーク等の客観調査から入り、市民ヒアリング、市民ワークショップでの協働作業という手順で進めた。

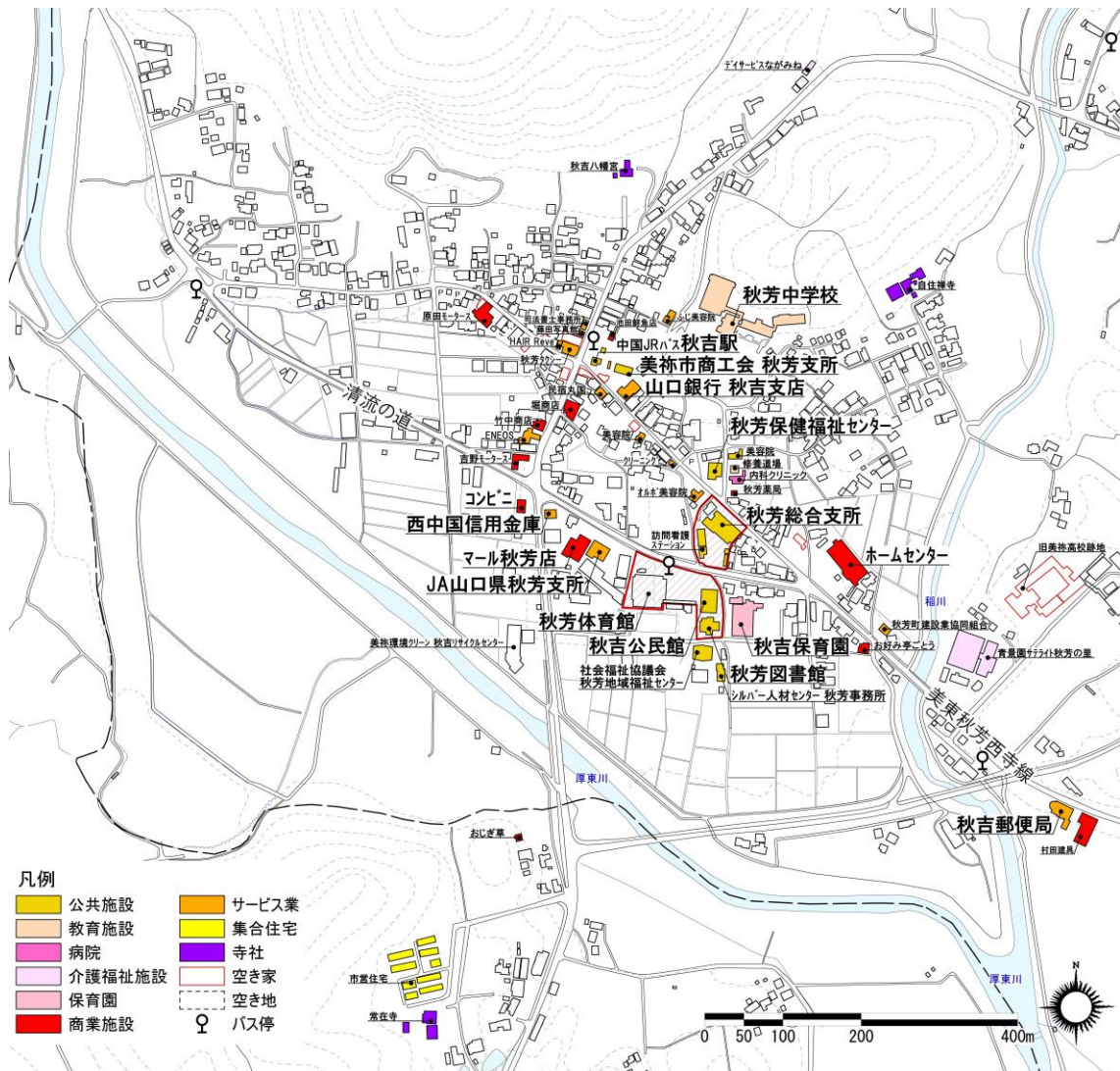


図一〇 基本計画の検討経過フロー

1) フィールドワーク

まず、実際にまちを見て歩くフィールドワークにより、地域の現状を把握する作業を行った。また、町史等の文献で、大まかな歴史や、まちのなりたち等に対する基本的な理解のための作業を行った。

フィールドワークにより、かつてはまちの中心部だった、旧道沿いの店舗を中心に、空き家が増えていることが分かった。



図一〇 フィールドワークによる敷地周辺の建物調査

2) 住民ヒアリング

住民の主体的な参加を求めるために、まず、最初に主要な活動団体や個人にヒアリングを実施し、それぞれが日常の活動の中で感じる地域の課題や、これからの活動について意見を集めると同時に、今後、ワークショップ等に参加し一緒に考えて頂く市民の掘り起こしを行った。ヒアリングに対応してもらった市民は、ワークショップにおいてコアスタッフとして、ワークショップ全般にわたって協働して検討を進めることが出来た。

住民ヒアリングは、11月11日から3日間の日程で行った(表-〇)。ヒアリングによって、まちの現状と、まちにどんな課題があるのか、また、新しい拠点施設がどのような場所になることを期待されているかが明らかになった。

開催日	内容	参加人数
2019年11月11日	第1回住民ヒアリング	4名
2019年11月12日	第2回住民ヒアリング	5名
2019年11月13日	第3回住民ヒアリング	3名
2019年11月13日	第4回住民ヒアリング	3名

表-〇 住民ヒアリングの実施日程

住民ヒアリングで得られた意見を、整理し、以降のワークショップのプログラム(検討内容)に活かした。整理した意見を以下に示す。

〇まちの現状と、まちが抱える課題

- ① 人が少ない、子どもを見かけない
- ② みんなが気軽にふらりと集まれる場所がない
- ③ 買い物をする店がない、食事をする場所がない
- ④ 子どもを遊ばせる場所がない
- ⑤ 災害の時、安心して頼れる避難場所がない
- ⑥ 車を運転できないとどこへも行けない
- ⑦ 施設が老朽化していて、安心して使えない
- ⑧ ジオパークについて市民はあまり知らない

○公民館はこんなところになったらいいネ！

- ① みんなが気軽に集まれて、一日過ごすことができる場所にしたい
- ② 自分の力を振るうことができる、活動の場や発表の場が必要
- ③ 食を通じた、世代を超えたコミュニケーションの場があるといい
- ④ 各地区の公民館の中心であり、地域全体のヘソになってほしい
- ⑤ イベントの開催や、子どもの遊び場になる広場がほしい

○図書館はこんなところになったらいいネ！

- ① 子どもと一緒に利用したくなる場所がいい
- ② 秋芳にしかない地域資料を活用することができる場所にしたい
- ③ 目的によって居場所を選ぶことができる、多種多様なスペースがほしい
- ④ 新しいことを始めるときに頼りになる、学べる場所にしたい
- ⑤ 外から来た人への地域のインフォメーション機能があるといい
- ⑥ 利用者同士の出会いやふれあいがある、ワンフロアの空間がいい

○総合支所は、こんなところになったらいいネ！

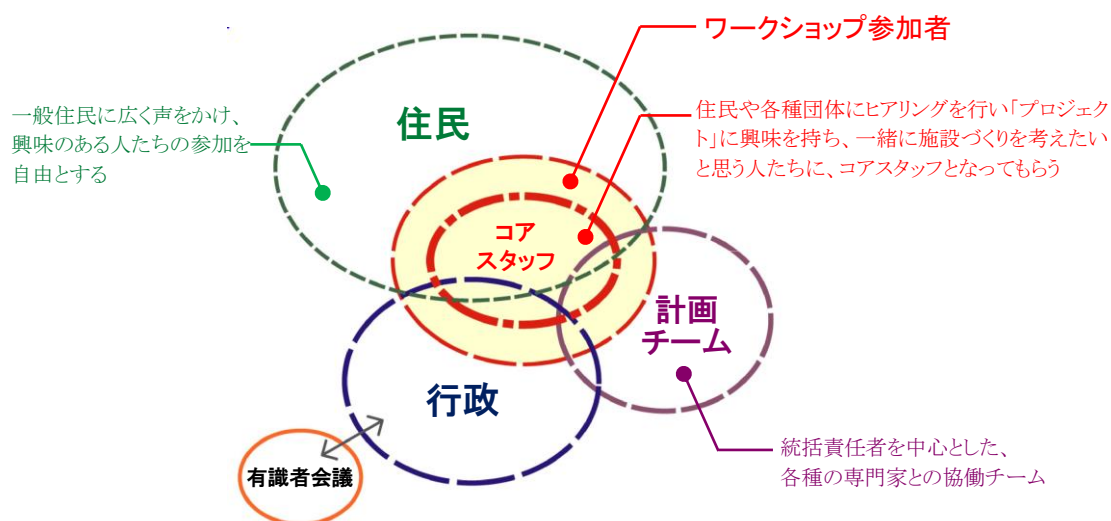
- ① 住民の自治を支えるコミュニティの中心となる場所にしたい
- ② 明るく、どこに行けば良いか一目でわかる窓口がいい
- ③ プライバシーが守られて、ゆっくり相談に乗ってもらえる空間が必要

○多目的ホールはこんなところになったらいいネ！

- ① 子どもからお年寄りまで元気になれる、運動・スポーツの拠点にしたい
- ② 100人規模の会合や、文化活動の練習や発表にも利用できる場所だとい
- ③ 災害時に避難場所として頼りになる場所になるといい

3) 市民ワークショップ

市民ワークショップは、コアスタッフ以外の市民にも広く声をかけて、自由参加の「この指とまれ」方式で行った。(図一〇) 毎回 30 名程度の市民の参加があり、オープンな雰囲気でも活発な議論を重ねることができた。



図一〇 市民ワークショップの体制

開催日	内容	参加人数
2019年12月14日	第1回市民ワークショップ ・秋芳地域の魅力と抱える課題 ・こんな複合施設だったらいいな!	29名
2020年1月18日	第2回市民ワークショップ ・建設場所について ・必要な場所・空間の相互関係	27名
2020年2月15日	第3回市民ワークショップ ・「空間の構成図」について検討 ・体育館機能の維持・継承の考え方	38名
2020年5月中下旬 (予定)	第4回市民ワークショップ ・建設規模と施設の構成について、 最終的な考え方を検討	〇〇名

表一〇 市民ワークショップの実施日程

○第1回市民ワークショップ

人口が減り、子ども達が少なくなっていく中で、安心して暮らしていくために、新しい拠点でどんなことが出来たら良いのか、どんな場所があったら良いのか、などについて意見を出し合った。

出された意見は、施設づくりの目標と備えるべき4つの要素(詳細は第2章1を参照)、目標を実現するために必要な機能、必要な場所・空間(詳細は第2章2を参照)として整理し、そのまとめを第2回市民ワークショップで提示した。



グループで出し合った意見(左)を全体場で発表した(右)

○第2回市民ワークショップ

第1回市民ワークショップの成果を確認し、必要な場所・空間が、どのようなつながり、配置だったら良いか、グループで議論してもらいながら、空間の関係図を作成した。

(図-〇) また、建設場所について議論し、現在の秋芳体育館を解体してその跡地に新総合支所を建設することで合意を得た。(詳細は第2章3を参照)



各グループで作成した空間の関係図(左)を全体場で発表した(右)

○第3回市民ワークショップ

第2回市民ワークショップで作成した空間の関係図を基に、4つの空間の構成図を提案し、ワークショップ参加者にそれぞれの案を評価してもらい、最もふさわしい案を選んでもらった。

バレーボールコート一面程度の広さのミニ体育館を一体的に整備し、市民ロビーと図書館を中心にして、その廻りに必要な機能を配した広場型の空間構成に対する評価が最も高く（図-〇）、この案をもとに検討を進めることで合意を得ることができた。

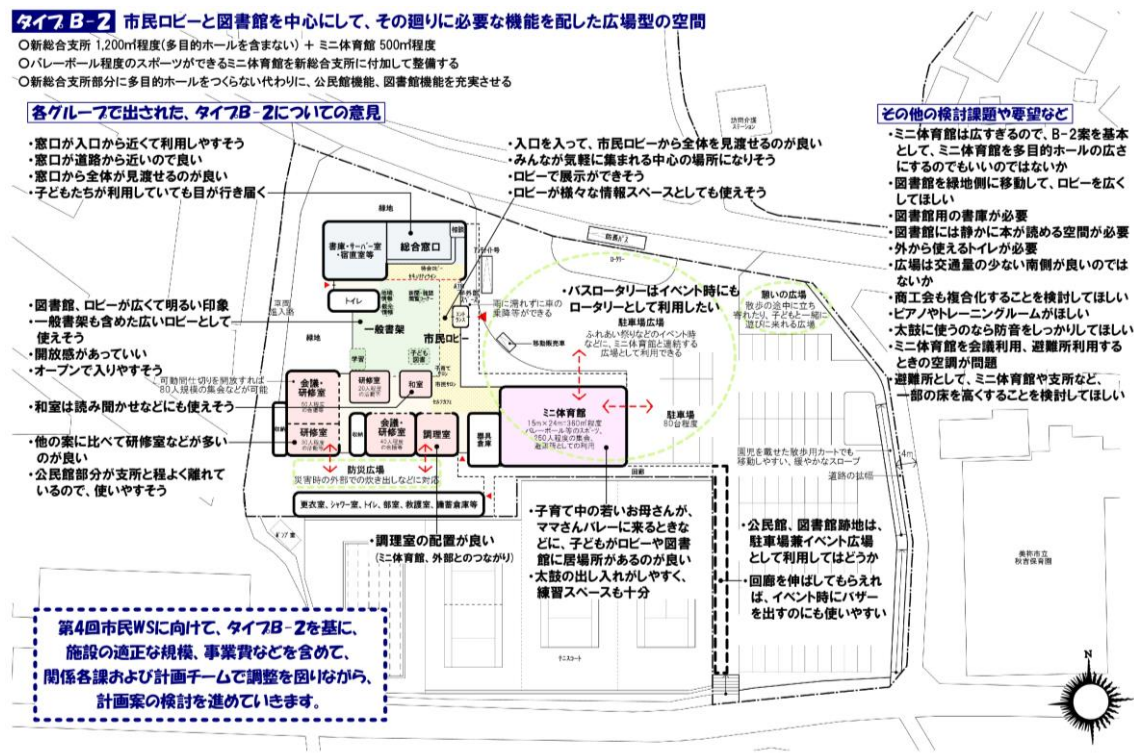


図-〇 4つの空間の構成図のうち、最も評価が高かったB-2案と、案に対する意見

○第4回市民ワークショップ

5月中下旬開催予定。建設規模と施設の構成について、最終的な考え方を検討する。

(開催後加筆します)

4) 秋芳中学校ワークショップ

美祿市の将来を担うことになる中学生が、今、何を考え、何を求めているのかを探るために、秋芳中学校において、1・2年生 45名の参加による中学生ワークショップを開催した。まず、自分たちが住んでいる秋芳地域の良さをどのように感じているのか、また、何を課題と感じているのかについて、意見を出し合ってもらった。次に、新総合支所でどんなことが出来たらいいか、どんな場所があったらいいか、などについて話し合い、自由に希望を出してもらった。

秋芳中学校ワークショップを通じて、中学生が新しい拠点施設に対して、居場所や勉強のできる場所、買い物や飲食などができるようになることを期待していることが分かった(図一〇)。

- ・だれもがくつろげるカフェのような落ち着いた居場所がほしい
- ・気軽に勉強しやすく、本がたくさんある、ゆったりとした図書館がほしい
- ・子どもでも安全に遊べる大きな広場がほしい
- ・ユニバーサルで使いやすい、みんなのふれあいの場所にしてほしい
- ・利用しやすい待合場所にしてほしい
- ・地域で採れた野菜などが買える直売所がほしい
- ・文房具など子どもが利用するものを買える場所がほしい
- ・運動ができる場所、飲食や買い物ができる場所が増えてほしい

図一〇 秋芳中学生が新しい拠点施設に期待すること



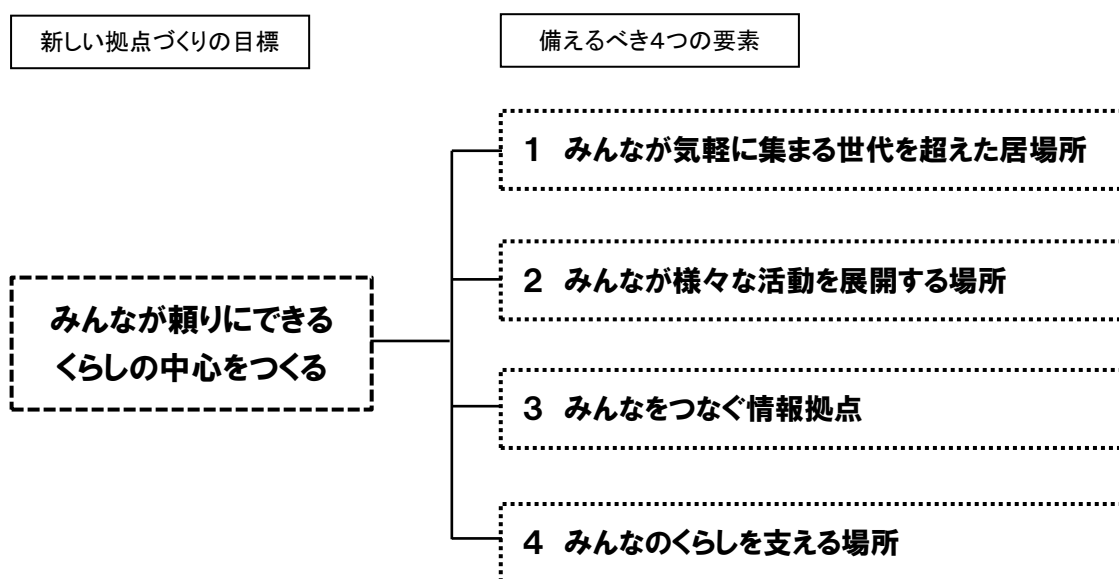
図一〇 中学校ワークショップでの作業成果物

第2章 新秋芳総合支所庁舎等整備の基本的な考え方

1 新秋芳総合支所庁舎等に求められる基本的な役割について

基本構想においては、総合支所周辺を、公民館や図書館、体育館等の複数の公共施設が立地する地域全体の住民の日常生活と地域活動を支える地域拠点として位置づけている。また、総合支所庁舎は、市民へのきめ細やかなサービスを提供する場であり、地域振興の中核となる施設で、更には、市民の生命と財産を守り、市民が安心安全に暮らせる生活環境を護るための拠点施設でもあると位置づけられている。新しい総合支所が、このような基本的な役割を担うためには、どのような機能を備えるべきか、市民ワークショップにより議論を重ねた。

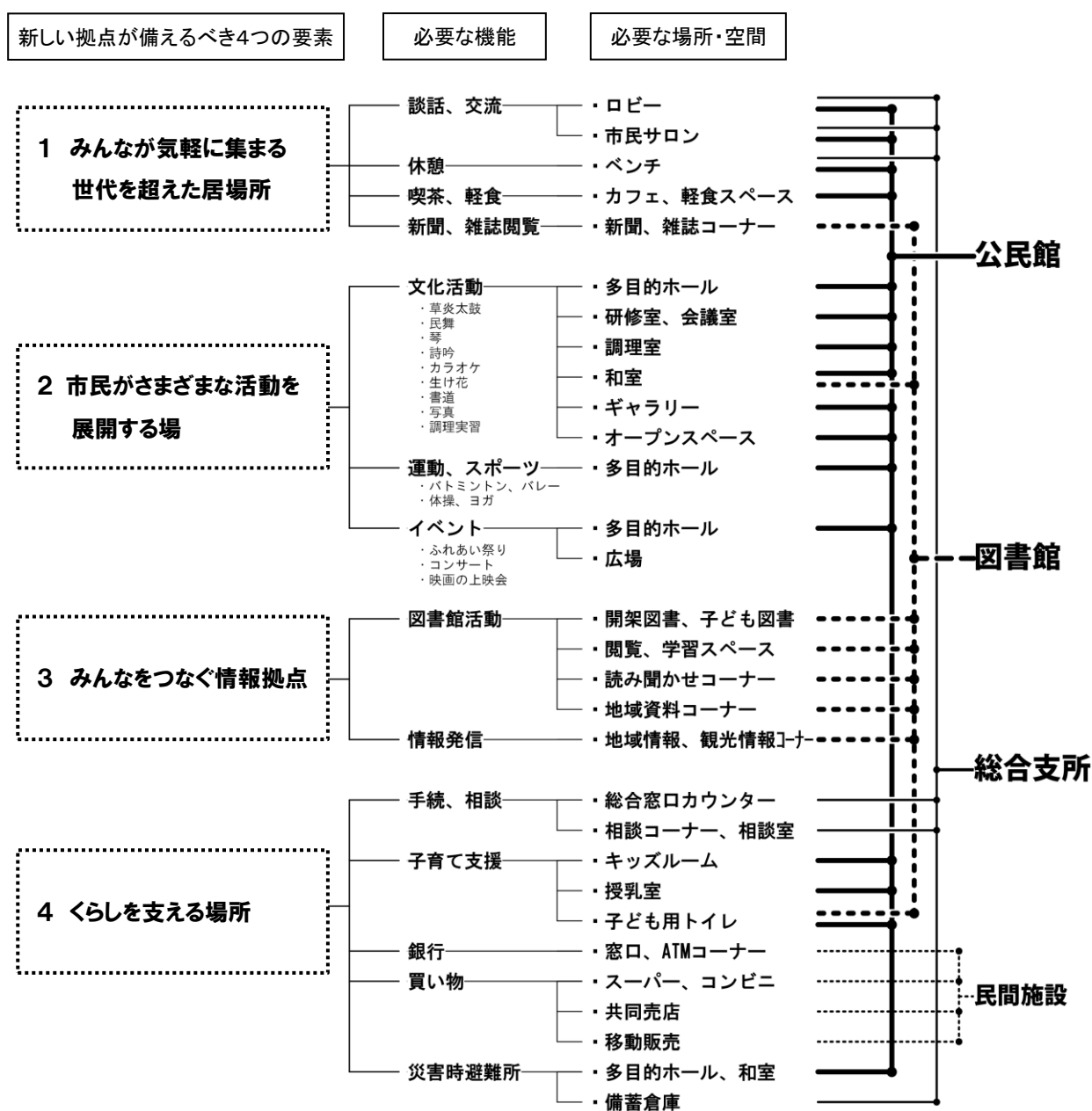
ヒアリングで聞き取った内容や、ワークショップで出された意見等をまとめると、かつてあった施設や機能が統合や廃止され、地域で生活する市民にとって、買い物ができ、そこに行けば誰かに会えるくらしの中心が縮小したことが大きな課題であるということが分かる。地域で暮らす市民が求めているのは、総合支所と、公民館と、図書館という公共施設をまとめてつくるという事業をきっかけに、「みんなが頼りにできるくらしの中心をつくる」ことである。その目標を実現するために、「1 みんなが気軽に集まる世代を超えた居場所」、「2 みんなが様々な活動を展開する場所」、「3 みんなをつなぐ情報拠点」「4 みんなのくらしを支える場所」の4つの要素を備える必要があることが確認できた。(表一〇)



表一〇 新しい拠点づくりの目標と、備えるべき4つの要素

2 新秋芳総合支所庁舎の複合化の基本的考え方

市民ワークショップ等で確認できた、地域のくらしの中心となる場所に備えるべき4つの要素を実現するためには、どのような機能が必要か、引き続き市民ワークショップで議論を重ね、複合施設の中に取り込む場所や空間の構成について、基本的な考え方をまとめた。(表一〇)

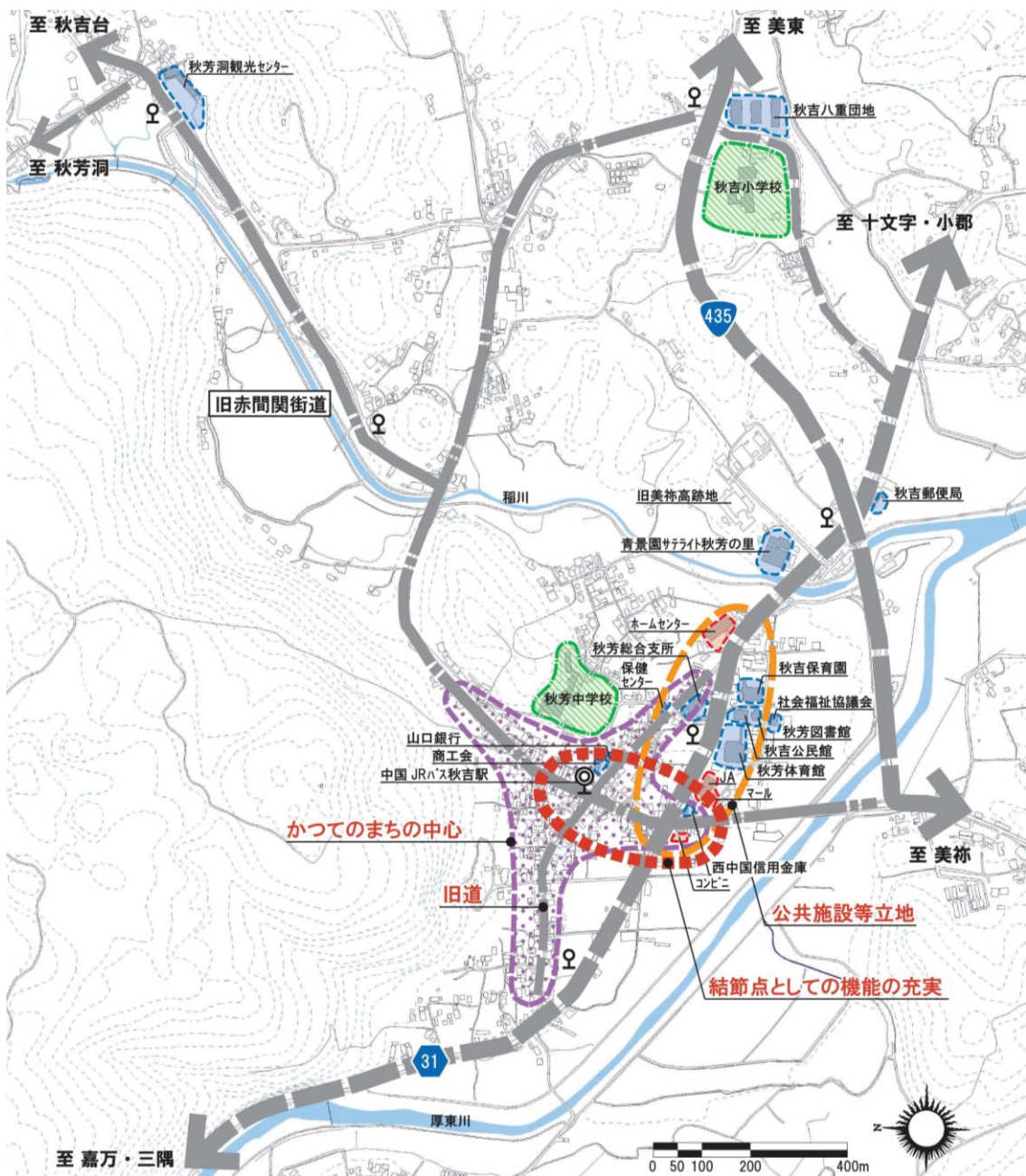


表一〇 新しい拠点が備えるべき4つの要素と、必要な機能、場所・空間

3 秋芳地域の複合施設立地エリアのまちの構造

秋吉地区は、山に囲まれた盆地状の平場にひろがった農村集落である。古くは下関と萩をつなぐ赤間関街道中道筋の宿場であり、山陰側の三隅と十文字・小郡方面をつなぐ道（現、県道31号）との結節点となっている。世界有数の鍾乳洞である秋芳洞の入口に近く、門前町的な役割を担い、観光客で賑わっていた時には多くのお店が立ち並んでいた。旧街道の宿場であり、景勝地の入口にあるという結節点としての立地上の特性が、周辺の集落を含めた地域の中心としての役割を担うことにつながっていた。




秋芳地域の地域づくりにおいては、秋吉台、秋芳洞という地域域固有の資源に関する情報の受発信拠点（ビジターセンター）として、複合施設の役割が期待される。



図一〇 秋吉中心部のまちの構造

建設候補地に関しては、基本構想時点では2カ所が併記してあり、その2つの敷地のどこに建てるかが、重要な検討課題であった。2つの敷地の中で、(A)現在の総合支所、(B)現在の公民館および図書館、(C)現在の体育館、の3案を比較検討し、第2回市民ワークショップにおいて議論した。

体育館が老朽化していることや、旧耐震基準のままであることなどから、まず体育館を解体して、その跡地に新総合支所を建てるC案が、仮設建物も不要になり、現実的であるとの評価が大勢を占めた。ただし、解体する体育館が担っている機能をどのように維持するかが問題になっている。

建設場所		A案 総合支所の解体跡地	B案 公民館、図書館の解体跡地	C案 体育館の解体跡地			
配置計画のイメージ							
施設整備の手順	1	総合支所から仮設施設への引越、既存総合支所の解体	公民館、図書館から仮設施設への引越、既存公民館、図書館の解体	既存体育館の解体			
	2	解体跡地に新総合支所の建設	解体跡地に新総合支所の建設	解体跡地に新総合支所の建設			
	3	仮設支所、既存公民館、既存図書館から新総合支所へ引越	仮設公民館・図書館、既存総合支所から新総合支所へ引越	既存総合支所、公民館、図書館から新総合支所へ引越			
	4	既存公民館、図書館の解体、跡地整備	既存総合支所の解体、跡地整備	既存総合支所、公民館、図書館の解体、跡地整備			
	5	施設全体完成	施設全体完成	施設全体完成			
評価項目		評価					
安全性	耐震基準	老朽化した、旧耐震基準の体育館が敷地内に残る	×	老朽化した、旧耐震基準の体育館が敷地内に残る	×	敷地内のすべての建物が新耐震基準となる	◎
	利便性	駐車場	新総合支所の近くに十分な駐車場が確保できない	×	新総合支所の近くに十分な駐車場が確保できない	△	新総合支所の近くに十分な駐車場が確保できる
経済性	仮設建物	総合支所機能を維持するために仮設建物が必要	×	総合支所機能を維持するために仮設建物が必要	×	中学校体育館などを代替利用すれば不要	△
	移転作業	整備期間中に総合支所の移転作業が2度あり、負担が大きい	×	整備期間中に総合支所の移転作業が2度あり、負担が大きい	×	体育館の移転作業は負担が少ない	○

表一〇 建設場所の比較検討

4 民間施設との複合化の可能性

地域の新しい拠点をつくり直す際に、近くにあると利便性が向上すると考えられる民間の施設との複合化の可能性について検討した。複合化の方法については、合築、テナントとして入居、等の方法が考えられるが、可能性のあるものに関しては、速やかに具体的な協議を進める必要がある。

(今後、具体的な協議が進み次第、修正し、確定させます。)

- 1) JA 山口県秋芳支所
- 2) 山口銀行秋吉支店
- 3) 美祢市商工会秋芳支部
- 4) カルスト森林組合秋芳支所

5 先進事例

近年整備された総合支所庁舎の多くは、行政支所と関連する他の機能を複合させて整備する傾向が顕著である。地域の空洞化が進んでいる状況を受けて、いくつかの施設を複合させることで新しく地域の中心をつくり直して行こうという考え方が背景にある。ここでは、近年、複合施設として整備された総合支所庁舎の中から、同程度の規模の事例を集めた（表－〇）。

		山陽小野田市厚狭地区複合施設	岡崎市額田支所周辺施設	越前市今立総合支所	豊田市藤岡支所・交流館	光市大和支所	山口市佐山地域交流センター	豊川市小坂井地域交流会館
複合している機能	総合支所	400	830	400	480	65	90	205
	公民館	530	370	880	950	550	550	820
	図書館	580	200	-	110	180	70	400
	その他 ()内数値は、別棟建物による面積	体育館(別棟) (840)	社会福祉協議会	商工会	-	コミュニティ協議会	社会福祉協議会等	児童館
		保健センター(既存、別棟) (600)	シルバー人材センター	130	-	45	80	400
	共有部分	600	490	230	1,330	950	190	990
	合計	2,110	1,890	1,830	2,870	1,790	1,040	2,820
構造	RC造	RC造、木造	RC造一部S造	木造、RC造一部S造	S造	RC造	S造	
階数	2階建	2階建	平屋	2階建	2階建	平屋	2階建	
蔵書	69,000	15,000	-	-	21,597	-	-	
建設工事費(千円)	1,456,730	922,391	750,000	1,414,441	600,000	700,000	1,560,000	
m ² 単価		488	500	493	335		553	
完成年月	2015年6月	2017年12月	2018年8月	2019年3月	2019年3月	2019年8月	2020年度完成予定	
複合化の特徴と周辺施設	支所、公民館、図書館からなる複合施設に体育館、保健センター(既存)が別棟で併設されている。また、敷地に隣接して、社会福祉協議会や医院等が立地している。	支所、公民館、図書館からなる複合施設。支所内にシルバー人材センター執務室が同居している。また、敷地に隣接して、社会福祉協議会、消防支所が立地している。	支所、公民館、商工会からなる複合施設。敷地に隣接して、図書館(1,000m ²)、歴史民俗資料館(380m ²)、芸術館(2,500m ²)、ホール(600席)等が立地している。	支所と、図書コーナーを持つ交流館の合築。支所の2階は観光協会、商工会、シルバー人材センターの事務室が同居している。また、敷地内にパターミナルが整備されている。	支所、公民館、図書館の複合施設。支所部分にコミュニティ協議会が同居。また、別棟で消防車庫、消防詰所等が併設。敷地周辺には総合病院、山口銀行等が立地。	支所、公民館、図書館コーナーのほか、地域づくり協議会と、地区社会福祉協議会が同居している。また、防災拠点として、消防車庫や詰所も合築している。	支所、公民館、図書館と児童館からなる複合施設。敷地周辺には小、中学校や保育園が立地している。	
備考	工事費は、解体工事費、外構工事費等も含む		事業費は基本計画時の金額および坪単価(計画当初面積1,500m ²)			工事費は、用地費、外構工事費も含む		

表－〇 同程度の規模の事例